




報道発表資料の配付日時 9月30日(月) 16時00分

発表項目 (行事名)	 ほっかいどう未来チャレンジ基金 「みらチャレ通信」Vol. 24の発行について		
記者レクチャー のお知らせ	(実施日時)	発表者	
		発表場所	
概要	<p>未来や世界を見据え、チャレンジ精神にあふれ、優れた能力を持つ若者達の海外挑戦を応援するため、平成28年12月に創設した「ほっかいどう未来チャレンジ基金」。この基金により海外に留学した方々の活動状況などをお伝えする月刊紙「みらチャレ通信」Vol. 24を発行しました。</p> <p>■掲載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9月、10月から留学を開始する第3期生を紹介します！ ・ 留学生達の活動報告 <ul style="list-style-type: none"> 〔 学生留学コース：林さん、星野さん、立花さん 〕 〔 スポーツコース：田中さん、向井原さん 〕 <p>■主な配布先 応援パートナー（企業、団体等）、道内大学等 ※基金ホームページにも掲載しています。</p> <p>■発行時期 毎月下旬</p>		
参考	ほっかいどう未来チャレンジ基金 公式Facebook「みらチャレ」  https://m.facebook.com/mirachalle/  公式Facebookページ みらチャレ 助成対象者の海外での活動状況等を随時掲載しています。		
報道（取材） に当たって のお願い	助成対象者の海外留学の状況を情報発信することにより、道内の若者の海外挑戦に向けた機運醸成と、寄附などオール北海道での応援体制の構築を図っていきたくので、積極的な報道にご協力よろしくお願ひします。		
他のクラブ との関係	同時配付 (場所) 同時レク		
担 当 (連絡先)	総合政策部政策局総合教育推進室 永田 電話：ダイヤルイン 011-206-7380 (内線 23-109)		

北海道に貢献する意欲のある若者の海外挑戦を、官民一体で応援する「ほっかいどう未来チャレンジ基金」の旬な情報をお届けします! 3期生の海外留学が始まっています。9月、10月で5名が新たに留学を開始します!

9月、10月から留学を開始する第3期生を紹介します!

【学生留学コース】



石垣 のぞみ

- テーマ 本道農業の魅力を発信するため、環境立国ドイツで有機農業を学ぶ
- 留学先 ドイツ (受入機関: 現地農家)
- 留学期間 2019年10月~ 11か月間
- 留学目的 バイオダイナミック農業などを行うドイツの有機農家の元で研修生として働き、持続可能な農業のあり方について考えたい。また、農家民宿を経営する農家の元で働くことで、グリーンツーリズムについて学びたい



有働 篤人

- テーマ 札幌を世界のデジタル観光都市にするため、ソフトウェア開発を学ぶ
- 留学先 フィンランド (受入機関: オウル大学、現地ゲーム企業)
- 留学期間 2019年9月~ 9か月間
- 留学目的 北海道経済を支えるような新たなゲームコンテンツ産業を創出するため、フィンランドで先進的なゲーム制作を学ぶとともに、北海道をデジタルコンテンツによって発展させるための端緒を掴む



海辺 菜々美

- テーマ 北海道の地域資源を活かした観光振興のため、アドベンチャーツーリズムを学ぶ
- 留学先 カナダ・アメリカ (受入機関: 現地観光関連機関)
- 留学期間 2019年9月~ 6か月間
- 留学目的 アラスカでインターンシップとフィールドワークを行い、需要側のニーズと供給側の意識のギャップに注視しながら、アドベンチャーツーリズムについて調査・研究を行う

【文化芸術コース】



清水 柚衣

- テーマ 北海道の音楽環境や音楽レベル向上のため、リスト音楽院ノンディグリープログラムに参加
- 留学先 ハンガリー
- 留学期間 2019年9月~ 10か月間
- 留学目的 演奏活動を通して音楽に溢れた北海道を創るとともに、後進の育成や北海道の音楽環境、音楽レベル向上に貢献するため、世界的に有名なピアニストのレッスンを受講する

【未来の匠コース】



鹿野 皓己

- テーマ 北海道ブランドのワインを確立するため、ドイツで醸造技術を学ぶ
- 留学先 ドイツ
- 留学期間 2019年9月~ 6か月間
- 留学目的 道産ワインを世界に流通するブランドとして確立させ、北海道をワインの銘醸地にすることを目指し、ドイツでワイン醸造の最先端技術を学ぶ

留学生たちの活動状況

学生留学コース

第2期生 林 泰佑 さん ~木造建築技術を学び、海外との架け橋となる建築家を目指す~

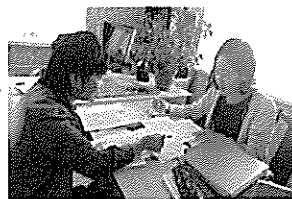
森林環境が北海道と似たフィンランドで、アアルト大学のウッドプログラムを受講し、9月に帰国。8月は、実際に構造材の接合状況や部材のサイズの確認など、今後モデルを作成する際の参考データを集めるため古城で実測調査を行いました。建築のスケール感を体感できたり、木材加工の際の道具が斧かノコギリかの違いで、手が加えられた年代を想定したりと、現場に行かないとわからない面白さを感じることができました。新しく生み出すデザインだけでなく古く価値のあるものを残すデザインの考え方をすることで、新しく建築を生み出す時にもプラスに働くことが多分にあると感じました。



第2期生 星野 愛花里さん ～種子生産やその輸出入を学び、北海道農業との連携を目指す～

種子ビジネスの発展が期待されるキルギスに、12月から1年間留学中

8月は、有機農産物を扱う農協の作業を手伝うとともに現在の農村のシステムを把握するため、農村住民への聞き取り調査を本格的に始めました。いつでも有機認証を取得できるように、組合員の圃場図・作付けデータをロシア語で記入する作業をしました。昨年の圃場図を持って行くと話しやすかったです。これから日本へ菓草を輸出するという話もある中、販売先を獲得して農協の経営を軌道に乗せるために、自分に出来る作業をしていきたいと思ひます。



第3期生 立花 洋太郎さん ～ものづくり産業の人材育成のため、ICTを活用したものづくり教育を学ぶ～

ICTを活用したものづくり教育を学ぶため、教育先進国のノルウェーに、8月から6か月間留学中

8月は入学式やオリエンテーション、メンターウィークと呼ばれる行事がありました。メンターウィークは学部の2年生がメンターとなり、1年生や交換留学生と新しい大学生活に慣れることや、学生や留学生との交流を目的とした行事になっています。そこで多くのノルウェー人学生と交流を深めることができました。ノルウェーは、高校卒業後の進路の多様性やそれに寛容な社会であり、個人の学力や能力、適正に合わせた教育が日本より充実している印象を受けました。その背景として、職業教育やものづくり教育を通じて個々の能力や適性を伸ばす独自の社会風土が大きく関係していると感じました。



スポーツコース

第2期生 田中 怜恵子 さん

～本場でラグビーを学び、道内女子ラグビーの発展に貢献～
ラグビーの本場ニュージーランドで、3月から6か月間、指導者と選手双方の立場からラグビープログラムに参加し、8月末に帰国

8月のプログラムを終え、6か月の留学を無事終了することが出来ました。この6か月間で様々なチームの練習に参加しましたが、どのチームのコーチにも共通している点は、選手とのコミュニケーション能力が高いことです。日頃から選手たちと積極的にコミュニケーションをとり、選手たちの状態を把握しながら信頼関係を築いていくことが重要であると感じました。帰国後は、留学で学んだミーティング内容などを活かし、チームの土台作りから積極的に関わっていきたく考えています。



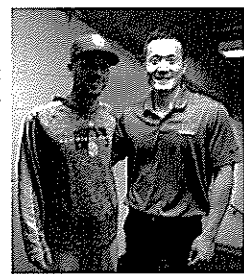
第3期生 向井原 洋平 さん

～アスレチックレナに必要な知識と技術を習得、道内スポーツ界に貢献～
アメリカで最新のスポーツ医学を学ぶため、7月から1年間留学中

サンフランシスコジャイアンツ(SFG)での活動では、シーズン中の復帰が不可能となる急性の外傷が2件起き、2件とも応急処置が適切に行われ、医療体制が整っていることで、迅速に対応できています。

医師が1～2人、毎試合、アスレチックトレーニングルームで待機しており、また、球場の一角に医療クリニックが設けられていることが大きな要因です。

こちらのプロスポーツを肌で感じることは、スポーツの地域社会への関わりや将来への可能性を考える上で非常に役立っています。



応援パートナーの皆様

(2019年9月現在・敬称略)

明くる元気にこのまちを
苫小牧信用金庫

岩田地崎建設

HBA

有限会社 **キョウゴク**

札幌市
City of Sapporo

大地コンサルタント
株式会社

TAIYO GROUP

大和証券
Daiwa Securities

Nichitoyo

北洋銀行

MASUDA
株式会社 丸升増田本店

MOROO

アイングループ

Asahi
アサヒ

AminoUP

AEON ID
イオン北海道株式会社

INDETAIL

NTT東日本

小樽医科大学

Icanamoto

北菜楼
Hokkaido Restaurant

有限会社 **京林トネリコ**

CRISPION
Sound the future.

話クレタ

セントラル

Century Royal Hotel
ロイヤルホテル

札幌商工会議所

ジェイアイ備蓄火災

JFE
JFE エンコア

JTB
JTB

清水建設

Secoma

一宮のりパートナー
Dai-ichi Life Group

大成建設
For a Lively World

ロイトン札幌
Dalwalhouse Group

丹波屋

China Bus
千歳相互観光バス

TOINT

東京海上日動

Daisho Kogyo

Docon

Nipponham

日本銀行

NORTH CREATE

HARP

萩原建設工業

HITACHI
Inspire the Next

北陸銀行

北海道銀行

HORI

MaxValu
マックスバリュ北海道

IKEUCHI GROUP

NITSUKUCHI ELECTRIC
Changes for the Better

三菱電機ビルテクノサービス

有末 真哉 石川 諭史 遠藤 光二 小黒 敬三 坂詰 貴司 佐藤 友昭 (税理士法人FULL SUPPORT 代表社員税理士) 鈴木 伸明
武田 孝 (拓殖工業(株)代表取締役会長) 船津 秀樹 その他匿名希望の個人・企業5者

北海道総合政策部政策局総合教育推進室
TEL : 011-206-7380 (直通) FAX : 011-232-6313
E-mail : mirai-jinzai@pref.hokkaido.lg.jp
ホームページ : <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/sky/mirai-jinzai.htm>

公式 Facebook ページ
みらチャレ

助成対象者のチャレンジ
風をまはらせます。